

KOBEしあわせの村ユニバーサルカレッジ 実践発表フォーラム

～学校を卒業しても仲間とともに学び続ける喜びを～

日時

令和4年2月26日(土)

14:00 ～ 17:00 (受付13:30～)

会場

神戸市教育会館 6階 大ホール

支援学校等を卒業した後の学び(生涯学習)と交流の場として、今年度スタートした「KOBEしあわせの村ユニバーサルカレッジ」の実践発表を通じて、家庭、職場に次ぐ「サードプレイス」としての「学びの場」の可能性をご一緒に考えたいと思います。

14:00 ～ 14:10	14:10～14:30	14:30～15:00	15分 休憩	15:15～16:30	～17:00
開会	実践報告① ～カレッジ概要紹介～ 動画等を交えてカレッジ の取り組みをご紹介します。	実践報告② ～カレッジに参加・参画して～ 受講生、運営スタッフ、指導者による 運営に際しての感想や気づきによ って報告します。		パネルディスカッション :植戸貴子氏 神戸女子大学健康福祉学部教授 :上野昌稔氏 神戸市教育委員会事務局特別支援 教育課特別支援教育推進担当課長 :崎濱昭彦氏 兵庫県健康福祉部障害福祉局局長 :村松好子氏 兵庫県特別支援教育諸学校長会会長 :渡部昭男氏 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 名誉客員教授	質疑応答 閉会

KOBEしあわせの村ユニバーサルカレッジとは…？

学校卒業後直後の、就労する障がい者を主な対象とした、生涯学習事業として令和3年7月開講しました。

興味関心の広がりをもつ様々なテーマの一般教養講義、そして会場となる北区しあわせの村の豊富な運動施設を活かした部活動、世代間交流行事を組み合わせた学びの場です。



http://www.kobe-wa.or.jp/universal_college.html

KOBE しあわせの村ユニバーサルカレッジ実践発表フォーラム

資料目次

- 資料1 (公財)こうべ市民福祉振興協会 会長 三木 孝 ご挨拶
- 資料2 実践報告① KOBE しあわせの村ユニバーサルカレッジ概要
高田 雅光 KOBE しあわせの村ユニバーサルコーディネーター
- 資料3 青年期の自分づくりと二重の移行支援そして、人生を彩る学び
渡部 昭男 神戸大学大学院人間発達環境学研究科名誉客員教授
鳥取大学名誉教授
- 資料4 学校における生涯学習の動向・今後取り組むべきこと 等
上野 昌稔 神戸市教育委員会事務局 学校教育部 特別支援教育課
特別支援教育推進担当課長
- 資料5 障害者社会参加支援事例(参考)
崎濱 昭彦 兵庫県健康福祉部障害福祉局 局長
- 資料6 ユニバーサルカレッジの取組～共生社会における学び～
村松 好子 兵庫県立東はりま特別支援学校 校長



「しあわせの村」の概要

開 村

平成元年(1989年)4月23日
(神戸市制100周年記念)

- ・「神戸市民の福祉をまもる条例」の理念の実現をめざして開村。
- ・高齢者や障がい者の自立と社会参加・社会復帰を支援するとともに、すべての市民が交流し、相互理解を深め、ともに生きる社会(ノーマライゼーション)の実現をめざす総合福祉ゾーン。

規 模

205ha(甲子園球場50個分)

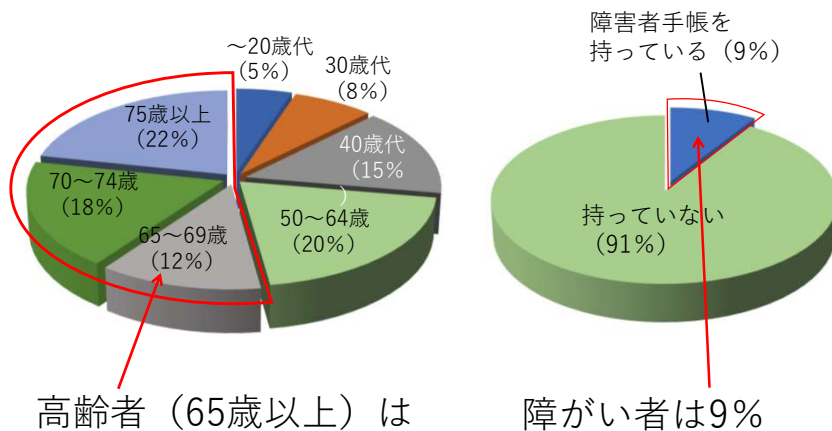
- ・全35施設
- ・医療施設・福祉施設
- ・宿泊施設・温泉・スポーツ施設・キャンプ場・日本庭園・研修館・馬事公苑、
- ・シルバーカレッジ 等

入村者数

186万1,800人(令和元年度)158万6,300人(令和2年度)
開村後の累計:約5,935万人

入村者の状況 (令和2年度アンケートより)

令和2年度入村者：158万6,300人



しあわせの村 リニューアル検討有識者会議 提言

～ イノベーションを起こし、ソーシャルインクルージョンを実現 ～

高齢者・障がい者が主役の村づくり(“しごと”などの役割づくり)

- ・ 企業・大学と連携した“しごと”創出の基盤づくり
- ・ 幅広い役割づくりや機会の創出

様々な領域における課題への対応

- ・ パラ・スポーツの振興
- ・ 認知症予防・共生の全市拠点
- ・ あらゆる子どもの成長支援
- ・ 動物とのふれあいを通じた交流



5

ノーマライゼーションからソーシャルインクルージョンへ

○しあわせの村開村時(1990)の市内障害者数(2017年比較)

- ・ 身体障害者 43,560人 →79,627人 8割程度が高齢者
- ・ 精神障害者 (平成8年から) →16,146人 自立支援医療受給者29,329人
- ・ 知的障害者 3,976人 →14,898人 発達障害のある可能性の児童在籍率 6.5%

○障害者支援制度の実施(2007年障害者自立支援法施行) 「措置から契約へ」

- ・ 「身体」「知的」「精神」障害共通→「発達」、「難病」の追加
- ・ 障害者サービスを一体的に提供
「医療」、「生活介護」、「移動支援」、「就労支援」
- ・ 訪問サービス延べ利用者は5割増
就労支援も含めた通所サービス延べ利用者は10倍増

○インクルーシブ教育の普及(全国義務教育児童生徒数,2008年→2018年)

- ・ 特別支援学校0.7%(1.2倍)、特別支援学級2.4%(2.1倍)、通級指導1.1%(2.4倍)
- ・ 特別支援学校高等部の卒業生就職率(2017年度)
全国30.1%、兵庫県21.5%、神戸市7.5%

令和元年10月17日『障害者に就労の機会を!』研究会 講演資料

神戸市 シルバーカレッジ



- 「再び学んで他のために」を基本理念として高齢者の豊かな経験を活かし、社会へ還元することを旨とする生涯学習の場
- 定員1,260人(420人×3学年)
- 4コース(健康福祉／国際交流・協力／生活環境／総合芸術)
- 地域交流グループ(学生全員)やボランティアグループ(卒業生によるNPO法人「グループわ」)で活動(平成30年度 延51,271人)

KOBEしあわせの村ユニバーサルカレッジ



障がい者の生涯学習の場として、令和3年7月開講！
～学校を卒業しても、仲間とともに学び続ける喜びを～

文部科学省 学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業
「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」受託(令和3年度採択)

KOBEしあわせの村ユニバーサルカレッジ 連携協議会 実行委員会

植戸 貴子	神戸女子大学 健康福祉学部 教授
上野 昌稔	神戸市教育委員会事務局 学校教育部 特別支援教育課 特別支援教育推進担当課長
大本 正巳	公益社団法人 全国障害者雇用事業所協会 副会長
小林 令伊子	神戸市福祉局 副局長
村松 好子	兵庫県特別支援教育諸学校長会 会長
崎濱 昭彦	兵庫県健康福祉部障害福祉局 局長
高田 哲	神戸大学名誉教授 神戸市総合療育センター 診療所長
本條 誠	神戸市立特別支援学校校長会 会長
松端 信茂	一般社団法人兵庫県知的障害者施設協会 会長
松原 建二	社会福祉法人かがやき神戸 理事長
森崎 康文	神戸市立ワークセンターひょうご 所長
奥脇 学	有限会社奥進システム 代表取締役社長 前公益社団法人全国障害者雇用事業所協会 理事 近畿ブロック長
角野 寛典	株式会社KEGキャリア・アカデミー 代表取締役社長
村田 淳	京都大学学生総合支援センター障害学生支援ルーム 准教授
赤木 和重	神戸大学大学院人間発達環境学研究所 准教授
信田 敏宏	国立民族学博物館 グローバル現象研究部 教授
高田 雅光	前 神戸市教育委員会事務局学校教育部特別支援教育課主任指導員

今年度3回実施

岡本 正	株式会社WAPコーポレーション 代表取締役
澤田 敏夫	公益財団法人 産業雇用安定センター 参与
笹森 理絵	神戸市発達障害ピアカウンセラー 精神保健福祉士・社会福祉士
近藤 武夫	東京大学先端科学技術研究センター 准教授
飯島 久道	社会福祉法人神戸市社会福祉協議会 新規事業担当局長
河崎 洋子	社会福祉法人 芳友 にこにこハウス医療福祉センター 施設長
西垣 千春	神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授
水野 ひろみ	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事
南 謙二	特定非営利活動法人社会還元センターグループ わ 理事長
宮野 愛子	株式会社ライフ・シンセリティ 代表取締役
吉田 茂之	美津濃株式会社 しあわせの村屋外スポーツ施設 指定管理者 支配人
奥山 隆彦	株式会社ウエルネスサプライ しあわせの村温泉健康センター 総支配人
実平 典子	新明和工業株式会社 経営企画本部 広報・IR部長
柳 有香	兵庫県印刷工業組合副理事長 共栄印刷株式会社 代表取締役社長
児玉 明子	児玉明子税理士事務所 所長 税理士

※今年度7回実施

※実行委員会には希望する受講生(2名)も参画

教育・医療・福祉・労働の分野の専門家の連携・協力を得てカレッジのあり方を探る

むら
KOBEしあわせの村ユニバーサルカレッジ



概 要

1. 経緯

- (1) 文部科学省が公募した「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」に応募し受託（契約最長3年間）
- (2) 学校卒業後の障がい者が興味関心の幅を広げる様々な教養を身に付けるとともに、主体性を育み、仲間づくりを実現することを目的に、令和3年7月に開講

2. 運営体制

ユニバーサルカレッジ実行委員会
・運営計画、カリキュラム等の決定
・毎回の実践結果自己評価
・連携協議会への報告
(R3年度：年8回開催)
※10月から受講生2名参加

事業実施団体：こうべ市民福祉振興協会

ユニバーサルカレッジ連携協議会
・運営計画、カリキュラム等に対する助言
(R3年度：年3回開催)

3. 受講生

(1) 原則として障害者手帳を有する18歳以上を対象に、市内特別支援学校等を通じて募集

(2) 受講生：30名（通年受講生27名+スポット受講3名）

｜年齢｜18歳～30歳（平均23.3歳）

｜所属｜企業：9名、就労移行：1名、就労継続A：1名、
就労継続B：15名、その他：1名

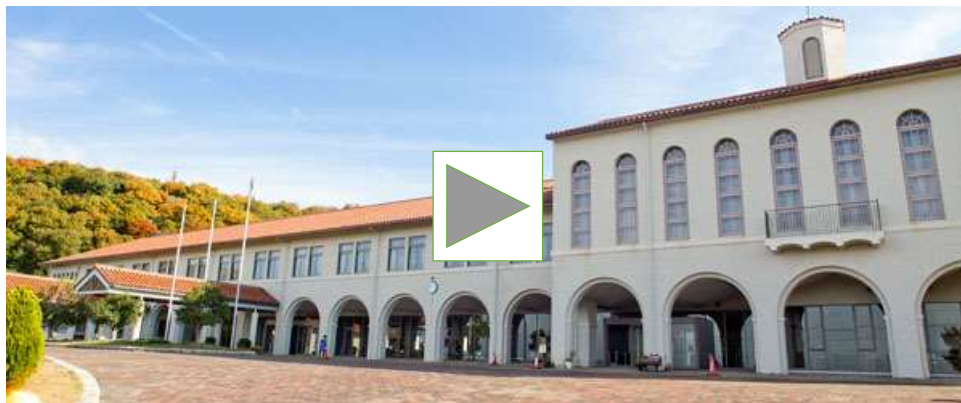
4. 受講料

5,000円(全6日、昼食代含む。)

年間スケジュール 時間割

年間スケジュール	(受講者数)	時間割
7/24 (土) ・開講式、オリエンテーション ・講義「異文化を学ぶ～文化人類学入門」	(24名)	9:00 受付、ホームルーム
9/11 (土) ・講義「化石のレプリカを作って標本にしてみよう」 ・講義「王子動物再発見」	(25名)	9:35 講義1
10/16 (土) ・講義「日本の鉄道 阪急・阪神電車の歴史」 ・講義「川崎重工業の創る未来」	(26名)	10:35 休憩
11/6 (土) ・講義「料理を通じて学ぶインド文化」 ・調理実習	(26名)	10:45 講義2
12/18 (土) ・講義「写真の魅力」 ・講義「ダンスを楽しもう」	(24名)	11:45 ホームルーム
2/12 (土) ・講義「神戸の歴史と文化～源平合戦と福原遷都」 ・閉講式	(21名)	12:00 昼食
2/26 (土) ・実践発表フォーラム(神戸市教育会館)		13:00 部活動、世代間交流行事 [15時終了]

カレッジの実際の様子をご覧ください



カレッジの特色

特色1 興味関心を持ちやすい講義内容

- (1) 人文学、自然科学、表現・芸術など幅広い講義テーマ
- (2) 講義において、視覚的なスライドを用いたり、クイズや質問を取り入れるなど受講生の理解を助ける工夫

| 受講生の反応（アンケート結果より） |

先生の話がわかった	先生の話に興味を持った
88.9%	85.3%

★ペンギンのはんしょく期や、エサは何の魚をあげているのか教えてほしいです (9/11・動物)

★むかしのことをして見て今とちがうんだなあと思いました (10/16・鉄道)

★インドでは、カレー以外に何を作っているのか気がなりました (11/6・インド文化)



特色2 部活動を通じた仲間づくり

しあわせの村の運動施設を活かした部活動5種目から選択

ダンス	8名
卓球	7名
スポーツ	6名
テニス	4名
ボクササイズ	2名



| 受講生の反応（アンケート結果より） |

部活動は楽しかった	部活動の仲間と仲良くなった	部活動をずっと続けたい
96.2%	88.5%	73.1%

- ★みんなと楽しく踊って、新しい自分にも出会えたと思いました(ダンス部)
- ★仲良くできた(卓球部)



特色3 高齢者との世代間交流

シルバーカレッジの卒業生・現役学生と「マジック大会」や「折り紙大会」などを通じて交流



| 受講生の反応（アンケート結果より） |

楽しめた	
第1回「マジック」	第2回「折り紙等」
91.7%	91.7%

- ★みんなでマジックしておもしろかった。親にもみせてあげた。
- ★巨大折り鶴って、協力し合うことが大事だと分かった。

特色4 参画するスタッフの多様性

1. 高齢者がスタッフとして参画

- ▶ 神戸市シルバーカレッジ卒業生を中心とした「NPO法人社会還元センターグループわ」が参画
- ▶ 設営、登下校案内、講義中の補助など、一緒に楽しみつつ、困ったときには寄り添いサポート。



2. 受講生と同年代の障がい者がスタッフとして参画

- ▶ 市内の障がい者就労継続支援事業所(B型)運営事業者の「㈱ライフ・シンセリティ」が参画
- ▶ B型事業所の利用者(研修生)である同世代の若者が受付や設営スタッフとして参画。時には部活動や交流行事と一緒に活動し、相互の交流を図る。
- ▶ 同事業所の支援員が受講生の様子にも細やかに目配り。



せいちょう
ご清聴ありがとうございました



むら

KOBEしあわせの村 ユニバーサルカレッジ実践発表フォーラム 2022.2.26

青年期の自分づくりと 二重の移行支援 そして、人生を彩る学び

渡部昭男（わたなべ あきお）
神戸大学大学院人間発達環境学研究科名誉客員教授
／鳥取大学名誉教授

1

自己紹介



神戸大学附属特別支援学校
校長室で執務中のスナップ (2016-18)

●職歴・経歴
愛媛🍊18年⇒京都🍵9年⇒
鳥取🍷29年⇒神戸🌊9年
⇒定年後の今は和歌山です
(なぜか「9」に縁のある数字!?)
【特別招聘教授@大阪成蹊大学論】

●趣味は📖を書くことです
👉 沢山📖を出しています

渡部 昭男
WATANABE Akio
【専門分野】特別支援教育・教育行政学

「この子らを世の光に」
障がい者福祉の父 (1914-68)
系賀一雄さんの思想と実践の伝道師

福祉の思想
情熱を持った人間が
歴史をつくる
—系賀一雄の思想と実践—
渡部昭男

2002～05年度：鳥取大学附属特別支援学校長

2006年：高等部**専攻科**開設（国立の知的障害校で唯一）

2011年：神戸大学に異動（**エコールKOBE**も同年に開設）

2016～18年度：神戸大学附属特別支援学校長

2

青年期とは

■ KOBEしあわせの村ユニバーサルカレッジ

2021年度の通年参加者27人：18歳～30歳 は

ライフステージで見ると≒ **ほぼ青年期**にあたる

* 寺崎弘昭教授（元山梨大学）のご研究による「人生区分」
セビリアのイシドルス(560頃- 636年) 『語源(Etymologiae)』

- ① 幼児 infantia — 7歳
- ② 子供 pueritia — 14歳 (puritas)
- ③ 青年 adolescentia — 28歳
- ④ 若者 iuventus — 50歳 (49歳)
- ⑤ 熟年 gravitas — 70歳 (77歳)
- ⑥ 老年 senectus

3

青年期の誕生と拡張

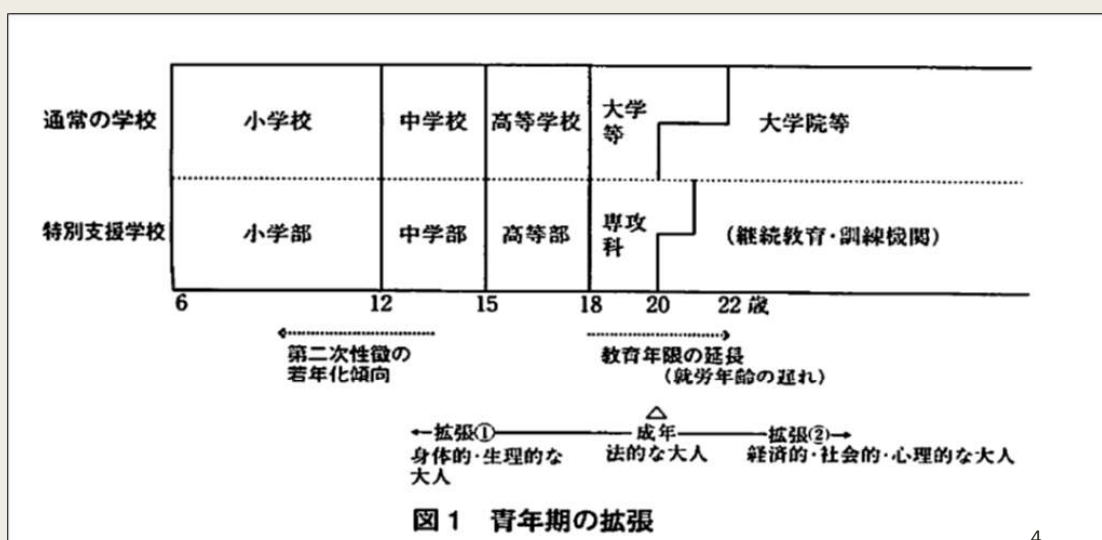
• 動物 = 成体か否か（仔が生める成熟か否か）の2区分

• 人間 = 「青年期」の誕生

「青年期」という人生区分認識は古代・中世から存在：寺崎弘昭2005

• 工場法(英国1802、日本1911) 児童労働を禁じて教育保障

• 自分づくり・青年期の拡張



4

青年期は健常者の専有物？

- 重い障がい者 = 永遠の子ども扱い
- 軽い障がい者 = 早く手に職を
- 障がい者に青年期は「ない/必要ない」との観念

@日本 9年間の義務教育保障(6~15歳) = 1979年度~

希望者全員の高等部進学(16歳~) = 2000年度~

- **そして今、青年・若者支援&生涯学習保障の時代へ**



文部科学省

共に学び ひろがる世界

~ 障害者×生涯学習 ~

障害の有無に関わらず、だれもが学び続けることのできる社会へ【障害者の生涯学習】

5

青年期の自分づくりと 二重の移行支援

- OECDによるトランジション研究

① 学校から社会へ (⇨仕事へ)

Transition from School to Society (Work)

② 子どもから大人へ

Transition from Childhood to Adulthood

※思春期(中学校/中学部)から20歳台半ば頃までの

約十年に及ぶ長期的で持続的な**二重の移行支援の保障**

※揺れ動きの中で「**かけがえのない自分**」をつくる

⇒学校型専攻科(鳥大附属2006~)

福祉事業型専攻科(エコールKOBÉ2011~)

神戸大学「学ぶ楽しみ発見プログラム」KUPI(2019~)

KOBÉしあわせの村ユニバーサルカレッジ(2021~)

6

学校型専攻科（鳥大附属2006-）



渡部昭男2009『障がい青年の自分づくり』日本標準

資料 1-1 「附養カレッジ」誕生を伝える新聞記事

国公立で初 高等部に専攻科「カレッジ」開講

鳥取大学入学式

鳥取大附属養護学校

2年間で社会生活力育む

家事、年金、選挙など学習

大学とも連携 入学式に参列

鳥取大学附属養護学校は、鳥取大学と連携し、鳥取大学附属養護学校高等部に専攻科「カレッジ」を開講する。カレッジは、2年間で社会生活力を育むことを目的とし、家事、年金、選挙などについて学習する。また、鳥取大学とも連携し、入学式に参列する。

鳥取大学附属養護学校高等部は、鳥取大学と連携し、鳥取大学附属養護学校高等部に専攻科「カレッジ」を開講する。カレッジは、2年間で社会生活力を育むことを目的とし、家事、年金、選挙などについて学習する。また、鳥取大学とも連携し、入学式に参列する。

鳥取大学附属養護学校高等部は、鳥取大学と連携し、鳥取大学附属養護学校高等部に専攻科「カレッジ」を開講する。カレッジは、2年間で社会生活力を育むことを目的とし、家事、年金、選挙などについて学習する。また、鳥取大学とも連携し、入学式に参列する。

福祉事業型専攻科（エコールKOBE2011-）



岡本・河南・渡部2013『エコールKOBEの挑戦』クリエイツかもがわ

ウェブ入手可能：渡部「障がい青年の自分づくりと二重の移行支援」

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90003518.pdf>

HP <http://eko-ru.jp/about/education.php>

教育（訓練）の重点



1. 「自立訓練（生活訓練）事業」の目的である「自立した日常生活又は社会生活を営むことができる」ことをめざします
2. 特別支援学校の高等部を含むこれまでの教育成果を引き継ぎ、青年期に見合った教育（訓練）を学園の理念に基づき行うことをめざします
3. 様々な社会的体験を深め、「主体的に・豊かに・楽しく」の理念の生かし、将来の社会的自立にゆっくり、ゆったり備えることめざします
4. 一人一人の個性、障害の特性を活かした進路指導、進路実現をめざします

専攻科等のあとを補う支援

■ 鳥取大学「ファーストジョブ支援室」2010-

📄文献：野波雄一2017：鳥取大学ファーストジョブ支援室の取り組み

<https://repository.lib.tottori-u.ac.jp/5385>

高等部卒業・専攻科修了後にも継続した移行支援（3年程度）

HP 鳥取大学附属特別支援学校「各学部の案内」

http://special.main.jp/html/htdocs/index.php?page_id=199

■ 福祉事業型「職業訓練校」カレッジ・アンコラージュ2014-

HP <http://wapcorp.co.jp/encourage/>



9

神戸大学「学ぶ楽しみ 発見プログラム」KUPI 2019-



HP <http://www2.kobe-u.ac.jp/~zda/KUPI.html>

学習プログラム 週3日(火・水・金) 16:30~20:00

<火曜日> 神戸大学
 16:30 HR (カフェ「アゴラ」で夕食を兼ねて)
 17:00 「障害共生教育論」：津田英二先生の講義
 神戸大学生と一緒に受けます
 18:40 授業のふりかえり
 20:00 プログラム終了

<水曜日> 神戸大学
 16:30 HR (カフェ「アゴラ」で夕食を兼ねて)
 17:00 「よりよく生きるための科学と文化」
 神戸大学の赤木、伊藤、稲原、岡崎、川地、
 高屋武、清野、松岡先生による体験型講義
 授業のふりかえり
 20:00 プログラム終了

<金曜日> 神戸大学
 16:30 HR (カフェ「アゴラ」で夕食を兼ねて)
 17:00 「話し合う！ やってみる！」
 やってみたいことを話し合っって計画を立てます。外にも出かけます。神戸大学生と一緒に研究や創作活動を楽しみます
 18:40 プログラムのふりかえり
 20:00 プログラム終了

- ◆ ESD学び隊「ワークキャンプ」
- ◆ ボランティア体験
- ◆ 神戸大学でのイベント参加など

10

KOBEしあわせの村 ユニバーサルカレッジ 2021-

HP http://www.kobe-wa.or.jp/universal_college.html



受講生の方は
こちら

関係者の方は
こちら

KOBEしあわせの村ユニバーサルカレッジとは...?

KOBEしあわせの村ユニバーサルカレッジは、学校卒業後直後の就労する障がい者を主な対象とした生涯学習事業として、令和3年7月しあわせの村を会場に開催しました。興味関心の広がりをもつ様々なテーマの一般教養講義、そして会場となるしあわせの村の豊富な運動施設を活かした部活動、世代間交流行事を組み合わせた学びの場です。

(令和3年度 文部科学省 学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究 地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進 事業受託)

幅広い分野の講義

社会的自立に
向けた知識
一般教養

自らの主体
性を育み発
揮する

社会性を育
み仲間づく
りを実現

講義や部活種目の選択

部活動や世代間交流授業

11

人生を彩る学び

人生80年時代／人生百年時代

想
山村和弘 個展

2021年
10月5日(火)～27日(水)
10～17時

アートスペース
からふる

QRコード
イベント
はこちら

日・祝休館／ギャラリーからふる（アートスペースからふる 2F）／若桜街道商店街
バス停川端一丁目前／鳥取県はーとふるアートギャラリー認定第1号／入場無料
企画 一般社団法人アートスペースからふる／〒680-0037 鳥取市元町 101
☎0857-35-0191 / ✉art.colourful.105@ncn-t.net / <https://art-colorful.com/>

12

木版画・墨絵・切り絵・造形物・・・

記事提供：國本真吾氏（鳥取短期大学教授）日本海新聞2021.10.16



原爆ドームの造形物を興味深く見つめる子どもたち

会場には大仏の木版画やシンプルな線で描かれた薬師三尊像の墨絵、原爆ドームの切り絵や造形物など、さまざまな技法で表現した作品がずらり。アートを通して平和への祈りや命の尊さを伝えている。この他、鳥取砂丘や白兔海岸といった地元の

平和をテーマに
さまざまな技法で

山村和弘さん個展「想」

風景を描いた油絵も展示されている。
林愛菜さん(7)＝河原第一小2年＝は「仏像の墨絵は迫力があって、見ていて楽しい」と笑顔で話した。(高坂綾奈)



● 鳥取 ●

障害者の芸術活動を支援するアトスペースからは、中学生のときに広島らふる(妹尾恵依子理事の原爆資料館を訪れ「あ長」所属のアーティスト 山村和弘さん(43)＝鳥取市＝の個展「想」が同市

元町のギャラリーからふるで開かれている。原爆ドームや仏像などをモチーフに制作した彫刻や墨絵など36点が来場者の目を引いている。27日まで。



山村和弘さん(アトスペースからふる提供、撮影：藤田和俊)

街を彩るアートフラッグ

■ 写真提供：國本真吾氏（鳥取短期大学教授）



私も神戸/和歌山から撮影&個展に



15

揺れ動きのなかでも ずっと 続けてきた愉しみ



16

おまけ

- 鳥取と言え「この子らを世の光に」の糸賀一雄さん

糸賀一雄研究会2021『糸賀一雄研究の新展開』三学出版

特設サイト <https://sites.google.com/view/itogakenkyubook/home>



渡部講演「ひとと生まれて人間となる：

糸賀一雄からのメッセージ」2021.11.20

<https://www.youtube.com/watch?v=PbWSYH2xrk8>

~~~~~

~~~~~

- 新刊のご案内

「豊かな連携」を築いて

複数の目で育もう

渡部昭男2022（3月）

『改訂新版 障がいのある子の就学・

進学ガイドブック』

日本標準 ISBN 978-4-8208-0721-6



19

KOBEしあわせの村ユニバーサルカレッジ実践発表フォーラム

神戸市教育委員会事務局 学校教育部 特別支援教育課

特別支援教育推進担当課長 上野 昌稔

生涯学習 国の動向

平成27年9月 国連サミット「持続可能な開発目標（SDGs）
の採択 8つの優先課題と具体的施策



- 第1課題 「あらゆる人々の活躍の推進」
- ・障がい者の自立と社会参加支援
 - ・教育の充実

平成29年4月 文部科学大臣メッセージ「特別支援教育の生涯学習化に向けて」

- ・保護者の方々は、特別支援学校卒業後の学びや交流の場がなくなることに大きな不安を持っていること
- ・今後は、教育施策とスポーツ施策、福祉施策と労働施策等を連動させながら支援していくことが重要

新学習指導要領での取り扱い 平成30年3月

「生涯学習への意欲の向上」

- ・生涯学習への意欲を高めるとともに、社会教育その他、**様々な学習機会に関する情報の提供に努めること。**
- ・生涯を通じてスポーツや文化芸術活動に親しみ、**豊かな生活を営むことができるよう**配慮すること

上記の2点が新たに盛り込まれた。

卒業生の様子から見えてくるもの

・生涯学習との関わり

ウィークデイは、充実した日々を送っている。



休日等の過ごし方は、様々（いくつかの例を）

学校で取り組むべきこと

- 「スポーツや芸術文化活動に親しみ、豊かな生活を営むことができる」（学習指導要領）



- ① 生徒の特性を把握し、個に応じた卒業後の生涯学習のための情報提供、活動体験を促進させる。
- ② アフターフォローの視点に「豊かな生活」というキーワードを入れる。

KOBEしあわせの村ユニバーサルカレッジ実践発表フォーラム

兵庫県健康福祉部障害福祉局

局長 崎濱 昭彦

情報支援

★視覚障害 → 点字図書館の設置

- ・点字図書 15, 243タイトル
- ・録音図書 14, 864タイトル
- ・オーディオブック 1600タイトル

パソコン技能講習会、ICT相談

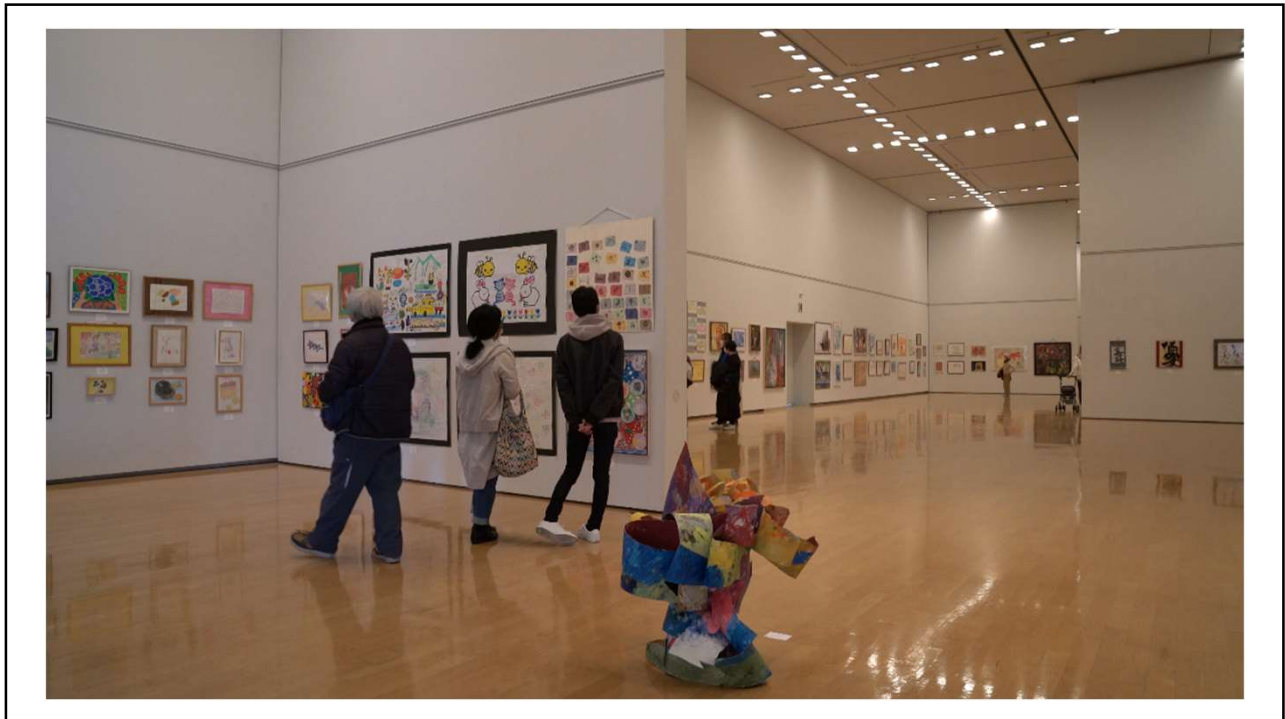
★聴覚障害 → 聴覚情報センターの設置

- ・各種手話支援
- ・防災学習、パソコン教室

社会参加

- ★芸術 → 障害者芸術「する・みる・ささえる」応援プロジェクト
- 「する」 → 日々の芸術活動で制作した作品展示の場
 - ・原田の森常設展示場
 - ・美術工芸作品公開展(2/18~20)
 - 「みる」 → 観劇等芸術、文化に触れる機会を増やす
 - ・手話通訳、要約筆記者派遣 字幕機材貸与
 - 「ささえる」 → 様々な展示会の設営補助ができる人材の育成
 - ・サポーター研修の実施





社会参加

★スポーツ

「する」

- ・障害者スポーツ交流館(西区)
ふれあいスポーツ交流館(西播磨)の設置運営
- ・障害者トレーニングセンターの整備
- ・企業、団体との応援協定の締結、バリアフリー化
- ・のじぎくスポーツ大会

社会参加

「ささえる」

- ・障害者スポーツ団体の育成支援
種目別大会の育成支援
- ・障害者スポーツの人材育成
指導者養成講習会

「ひろげる」

- ・小中学校への出前講座
- ・ひょうごユニバーサルマラソン2022(3/6:赤穂海浜公園)

社会参加

★キッズニア甲子園貸し切りイベント

知的障害、発達障害者の職業体験！

令和元年11月9日(土)(令和2、3年はコロナで中止)

・参加者 障害者 186人(付き添い者186人)

ボランティア等 61人

(高校生25人、中学生44人、小学生以下107人)



2022.2.26

KOBEしあわせの村ユニバーサルカレッジ実践発表フォーラム

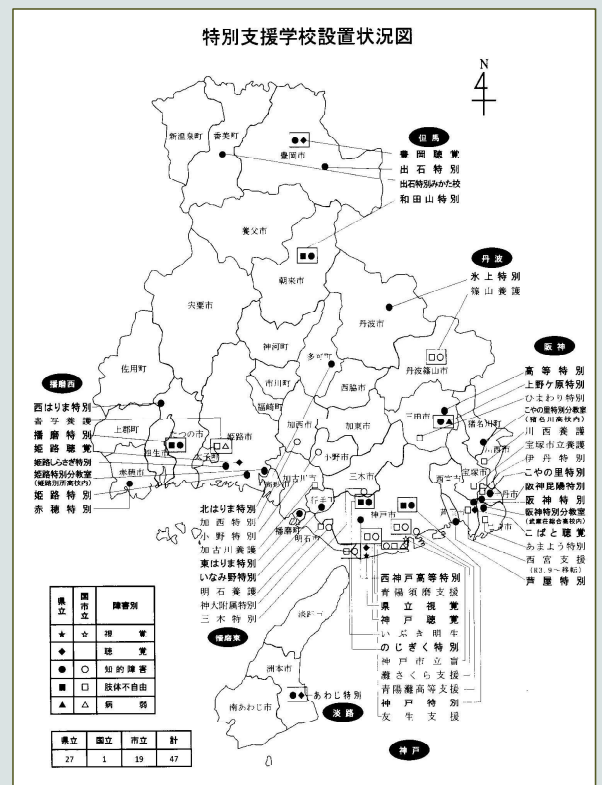
ユニバーサルカレッジの取組 ～共生社会における学び～

兵庫県立東はりま特別支援学校

校長 村松 好子

I 県内の特別支援学校等の概要 (R3)

- ・ 学校数 47校 (県立27, 国立1, 市立19)
- ・ 高等部設置校数 43
- ・ 高等部卒業生 令和元年度・・・973人
令和2年度・・・990人



「特別支援教育・・・兵庫」兵庫県特別支援教育振興会 (2021)

第3期「ひょうご教育創造プラン」

【基本理念】

兵庫が育む 心豊かで自立する人づくり
—「未来への道を切り拓く力」の育成—

基本方針 1 「生きる力」を育む教育の推進

基本方針 2 子どもたちの学びを支える環境の充実

基本方針 3 人生100年を通じた学びの推進

- ・主体的に生きるための学びと場の充実
- ・文化財等地域資産の活用、
- ・「する・みる・ささえる」スポーツ環境づくりの推進

3

Ⅱ 卒業生のニーズ



兵庫県生涯学習アンケート 集計結果より (2021年10月)

<調査主体>

兵庫県学校卒業後の障害者の学びを支えるための地域連携コンソーシアム

○兵庫県教育委員会事務局社会教育課HPに掲載

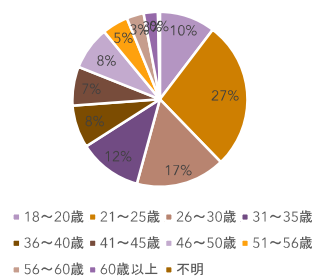
【調査の概要】

- ・調査対象者：主に療育手帳所持者
- ・調査時期：2021年9月
- ・調査方法：Google Forms用いて実施。
- ・質問票作成：ワーキンググループで原案を作成、コンソーシアムで決定
- ・回答の呼びかけ：コンソーシアムメンバーからの依頼
新聞での呼びかけ
- ・有効回答数：811件（兵庫県外からの回答は無効）
- ・回答の状況：本人が回答350件
支援を受けながら本人が回答142件
保護者や支援者が回答312件

【回答者の属性】

- ・若年層に偏ったサンプル
- ・就労支援施設通所者、生活介護事業所が半分以上。企業就労・アルバイトは1/4
- ・神戸・阪神の居住者が3/4
- ・障害 療育手帳A 297
療育手帳B1 204
療育手帳B2 236
身体障害者手帳 126

回答者の年齢



1 質問事項

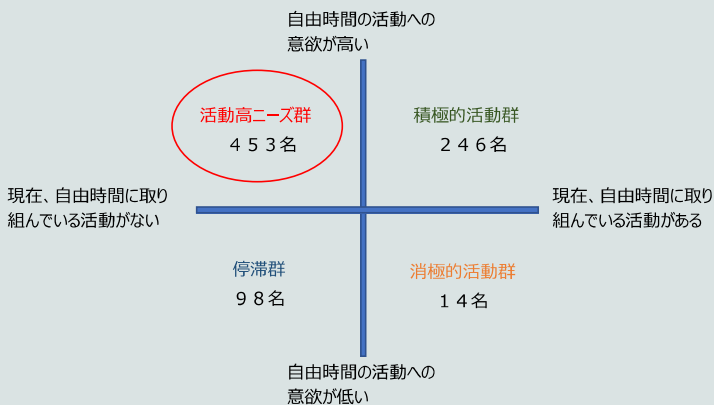
- ①【自由時間】
- ②【自由時間にやってみたいこと】
- ③【情報】
- ④【場所】
- ⑤【活動に至るまでの困難】
- ⑥【必要なサービス】
- ⑦【自由時間を使った活動】
- ⑧【自由時間を使った活動をしない理由】

2 集計結果（抜粋）

- ② 音楽やスポーツをやりたいという回答者が多かった。他方、やりたいことがないという回答者も17%に達した。
- ⑦-1 自由時間を使った活動を現在している人が回答者の1/3、自由時間に何もしていない人が全体の半数近くに達した。
- ⑦-2 自由時間を使った活動の動機は、楽しみや健康を求めて。
- ⑦-3 自由時間を使った活動の場所としては、自学自主をする回答者が多く、民間の講座や教室、自主的なサークルに参加する人も目立った。
- ⑧ 何をしてもいいかわからない回答者が多く、また、気持ちが向かない回答者もめだつた。

3 クロス集計（抜粋）

■ 活動の意欲と実際の活動の関係



活動意欲の高低と、現在取り組んでいる活動とをクロスさせ、4象限をつくったところ、意欲は高いが活動に取り組んでいない層の人数が全体の半数に達した。

Ⅲ 取組の成果

「ユニバーサルカレッジの取組」

<目的>

学校卒業後就労している障がい者が興味関心の幅を広げる様々な教養を身に付けるとともに、主体性を育み、仲間づくりを実現することを目指します。



<人生100年時代>

- 学びたい人が学びたい時に学ぶ場がある
- 人生を豊かに生きる
(興味・関心) (世代間・人)
- 学びの継続

IV 展望と期待



県立考古博物館HPより



- 1 学校で育てる「意欲・関心の芽」
- 2 生涯学習の場の拡充の可能性



【兵庫県立考古博物館】

障害のある児童生徒の利用増

ワークショップの工夫が必要

- ・内容を簡単にすればよいのではない
- ・視覚支援、作業の流れの把握

「できた！わかった！」

意欲・関心、学びの広がり

【ユニバーサルカレッジの講座】

- ・様々な分野、専門性のあるテーマ
- ・講義の展開の工夫

座学と体験

意欲・関心、学ぶ楽しさ

地域の施設における講座のモデル

→生涯学習の場の拡充

→共生社会での学びの場の拡充へ

ありがとうございました

KOBE しあわせの村ユニバーサルカレッジ実践発表フォーラム資料 (成果報告書別紙)

正誤一覧

・資料2-1 下段スライド

①誤：R3年度：年8回

正：R3年度：年7回

②誤：10月から受講生2名参加

正：11月から受講生2名参加